

公益財団法人こころのバリアフリー研究会

Newsletter No.18

2023.3.29

会員のみなさまへ

(財)こころのバリアフリー研究会 理事長

秋山 剛

コロナがこのまま減少し、人々が、より直接的なつながりをもてる状況に移れるのでしょうか？こころのバリアフリー研究会でいろいろな方がつながれるように、今回も、4名の方に入会をいただきました。吉川さんは、長年、看護として活動をされている方で、こころのバリアフリー研究会と看護の方の橋渡しを御願いできればと思っています。佐藤さんは、以前はメディアにおられて、その経験もいかしながら、こころのバリアフリーの活動をされている方です。私たちの活動を、メディアを通して、どう社会につなげていければよいのか、アドバイスをいただければと思います。横山さんは、昨年このこころのバリアフリー研究会の総会で講演していただいた北中さんのお弟子さんです。「差異を超えてピアになる」という修士論文も書かれています。福元さんは、「トラウマを有する双極Ⅱ型障害患者に対する EMDR の試み」で、日本精神神経学会の優秀発表賞を受賞されています。横山さんと福元さんには、研究会に、若い風を吹き込んでいただければと思います。今週中には、もう桜が咲きそうです。花の下で、人々の心がつながれる春になればと思います。



目次 1頁

理事長からの挨拶

2～4頁

新入会員

吉川 隆博（東海大学医学部看護学科）

佐藤 光展（OUTBACK アクターズスクール/KP 神奈川精神医療人権センター）

横山 紗亜耶（慶應義塾大学社会学研究科 修士課程）

福元 進太郎（福井大学医学部精神医学）

吉川 隆博（東海大学医学部看護学科）

東海大学で看護教員をしています、吉川隆博（きっかわ たかひろ）と申します。

また、一般社団法人日本精神科看護協会の会長を務めています。この度、ご縁がありまして公益財団法人こころのバリアフリー研究会に入会をさせていただきましたので、何とぞよろしく願いいたします。



日本精神科看護協会では、毎年7月1日を「こころの日」と位置付けて、47都道府県支部と協働して様々な活動を行っています。また、「こころの健康出前講座」、「こころの看護便」など、こころの健康や精神疾患に関する普及・啓発活動を長年実施してきました。

最近では他団体や様々な立場の皆様と、一緒にメンタルヘルスに関する活動を行っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

佐藤 光展（OUTBACK アクトーズスクール／KP 神奈川精神医療人権センター）

私が「精神医療」に初めて遭遇したのは1995年、28年前のことです。新聞記者になってまだ3年目でしたが、阪神淡路大震災の被災地に医療担当として突然投げ出され、神戸大学医学部精神神経科の教授だった中井久夫さんと出会ったのです。



当時、PTSDという言葉を知る人はほとんどいませんでした。中井さんから様々なアドバイスをいただき、心的外傷についての24回の長期連載をまとめました。

その連載では、PTSDをいたずらに騒ぎ立てることは避けました。大災害後のストレス反応は回復の一過程で、時間と共に消失すると強調しました。PTSDという病的状態に陥った場合でも、一番の薬は周囲の支えであるとも書きました。今読み返しても恥ずかしくない内容にできたのは、中井さんのおかげです。被災者の心にそっと寄り添う精神医療に、私は感銘を受けました。

しかし、私はその後の取材を通して精神医療の暗部を嫌というほど見せつけられました。新聞社を早期定年退職した私は3年前、患者の人権擁護を目的としたKP 神奈川精神医療人権センターの立ち上げに関わりました。加えて、才能あふれる患者たちの発信力向上を目

指す OUTBACK プロジェクトという組織をつくり、この演劇部門として OUTBACK アクターズスクールを開校しました。

超長期入院などの精神医療の暗部を生み出し、支えているのはこの社会です。日本に暮らすひとりひとりの「こころのバリアフリー」こそが、この分野の積年の問題を解決する唯一の道であると考えて、参加させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

横山 紗亜耶（慶應義塾大学社会学研究科 修士課程）

初めまして。精神保健福祉領域をフィールドとして、人類学的研究を行っております。横山紗亜耶と申します。

精神疾患や障害のご経験を持つ当事者を中心に行われる当事者活動に関心があり、様々な当事者団体で参与観察を行ってきました。

当事者活動では具体的に何が行われているのか、活動を通してどのように社会との交渉が行われているのかといった、当事者活動の戦略的な側面の言語化を研究の目標としています。そのため、当事者団体の中で起きる日々の微細かつ具体的な動きだけでなく、精神保健医療・福祉領域をとりまく社会制度や歴史といった巨大かつ抽象的な対象の変化も丁寧に追っていきたいと考えております。

本研究会では、様々な立場からご参加していらっしゃる方々との意見交換を通じて、精神保健医療・福祉のまだ見ぬ多様な側面に触れられるのではないかとわくわくしております。どうぞよろしくお願いいたします。



福元 進太郎（福井大学医学部精神医学）

福井県で精神科医をしている福元進太郎と申します。

音楽が大好きで、児童養護施設や特別支援学校の子どもたちと一緒に音楽活動をしています。「音楽を楽しむ者同士」の関係性の中で、日々模索しています。

2021年4月から、子どもたちの医療、教育、福祉に関する研究会『Child Health Education Social Solidarity』を立ち上げました。養護教諭、放課後児童支援員、音楽療法士、児童養護施設職員、精神保健福祉士、精神科医、小児科医、産婦人科医、内科医、看

護師といった多職種で企画・運営をし、職種の垣根を超えて「真の意味での連携」を目指しています。そしてなによりも、子どもたちの声・想いがきこえてくるような会になることを目標にしています。

この度は入会させて頂きありがとうございます。よろしくお願い致します。